

ネイパル探検隊

1 事業のねらい

自分たちの住む地域の歴史や文化について、現場に赴き、実際にその遺産や史跡を見ながら時代背景や経過を学ぶとともに、北海道への理解や愛着を深める。

2 事業の概要

- 期日 R2.10.31(土)～11.1(日) 1泊2日
- 対象 小学3～6年生
- 人数 23名
- 場所 ネイパル北見
- 協力 北網圏北見文化センター、北見ハッカ記念館・蒸留館、留辺蘂木工株式会社・オホツクウッドピア、北見市水産課、端野町歴史民俗資料館・図書館

3 プログラム

日時	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	宿泊地
1日目	受付 8:45～9:00 (北見市民会館) (4号室)			開会式	バス移動	体験学習Ⅰ-① (北見)	バス移動	体験学習Ⅰ-② (北見)	バス移動	体験学習Ⅱ (留辺蘂)	バス移動	体験	夕食	ふりかえり	入浴・自由	就寝準備	就寝	ネイパル北見
2日目		起床洗面	朝食	清掃・点検	準備	体験学習Ⅲ (常呂)	体験	昼食(食堂)	バス移動	体験学習Ⅳ (端野)	ふりかえり	閉会式	解散予定 16:30 (北見市端野図書館)					

4 ねらいを達成するための活動の工夫

- 地域への関心を高めるフィールドワーク
 - ・北見市4自治区(北見・留辺蘂・常呂・端野)の地域を象徴する施設や作業現場を回り、それぞれの歴史・文化を学び、比較することで、地域性がより明確にし、自分の住むまちへの興味関心を高めることに繋げるようにした。
- 学んだことをまとめ、発表する場の設定
 - ・各日、ふりかえりの時間を確保し、記憶が新しいうちに各地区で学んだことをまとめ、発表する活動を設定することにより、参加者自身が感じた地域の良さを表現できるようにした。

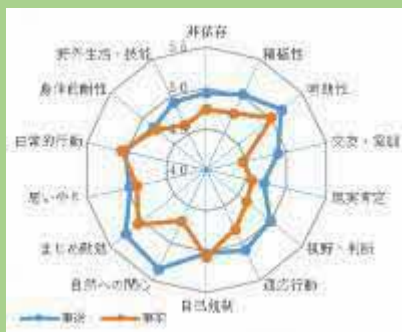


現物を見て歴史・文化を感じる



現場に赴き、地域の産業を学ぶ

5 事業の評価



■IKR 調査による変化

- ・「自然への関心」0.7P「視野・判断」「交友・協調」0.4P 向上
- ・「自己規制」は大きな変化なし

■参加者の声

- ・北見市誕生の歴史には、いろいろ大変なことがあったと分かった。
- ・他のまちについても調べてみたい。

6 ねらいを踏まえた成果と課題

- 「自然への関心」が向上したことから、環境に適応しながら発展した各地域の歴史を学ぶ活動を通して、地域に対する興味関心が高まったものと考えられる。
- 地域への理解や愛着を深めるために、見学だけではなくものづくりや職業体験など、歴史や文化を味わう体験活動を取り入れる必要がある。



企画のポイント

地域への理解と愛着を育むための見学先の選定と、学びに繋がる体験活動の設定

とかち森の学校

1 事業のねらい

森に親しむ活動をとおして地域の自然への関心を高め、ふるさとへの愛着や誇りを育む。

2 事業の概要

- 期日 R2.7.4(土) 日帰り
- 対象 小学生とその保護者
- 人数 15組 45名
- 場所 ネイパル足寄
- 協力 九州大学農学部附属演習林北海道演習林

3 プログラム

9	10	11	12	13	14	15	16
7/4 (土)	受付 9:00~	開 会 式	おやこで森たんけん！ (準備・移動・昼食を含む)		バックタグ 作り	閉 会 式	解散 15:30

4 ねらいを達成するための活動の工夫

- 専門家を招聘した指導内容の充実
 - ・九州大学農学部職員を講師に招き、専門家の指導による体験活動を行うことで、日常では気付くことのできない視点のほか、地域のよさや自然の豊かさを体験的に学ぶことができるようにした。
- 多様なアクティビティを準備し、興味関心を高める
 - ・親子で楽しみながら、スラックライン、ターザンロープ、ハンモックなど様々なアクティビティを取り入れたり、自分たちで集めた植物を使って創作活動を行ったりすることにより、地域の自然に関心を高められるようにした。



地域の自然をたっぷり体感



親子で協力した創作活動

5 事業の評価

- アンケートから
 - ・子ども向けアンケートで「ふるさとへの愛着」の項目において「わいた」「少しわいた」と肯定的に回答したのは100%。
 - ・保護者向けアンケートで「今後も子どもに自然体験をさせたい」の項目において「思う」と肯定的に回答したのは100%。
- 参加者の声
 - ・帰ってからも葉っぱをひろって、押し葉にして標本にしたいと思いました。(子ども)
 - ・十勝に住んでいてもなかなか木の名前を知る機会、興味があまりなかったので、今後子どもと少しでも知っていければと思います。(保護者)

6 ねらいを踏まえた成果と課題

- 多様なアクティビティと専門的な指導を取り入れることで、親子共に楽しみながら自然体験活動の重要性の理解を進めることができたと考えられる。
- 地域への興味関心を一層育むためには、事業終了後にも参加者が自主的に取り組める活動の紹介や、継続的に参加できるプログラムの提供が必要である。



企画のポイント

非日常的な視点や体験により、ふるさとや地域の自然への興味関心を高める仕掛け